

目 次

1. □ 巻頭言「遠くて近い国々との交流」	中村隆夫	2
2. □ 音楽表現の力—設立からこれまでの学会活動を振り返って—	小西潤子	3
3. □ 春に思う—気候と音楽	加藤晴子	4
4. □ 2006-7年度会長・理事選挙について	選挙管理委員長 長岡 功	7
□ 選挙人名簿		8
□ 候補者の紹介		9
5. □ 日本音楽表現学会第4回グリーン・アベニュー大会のご案内		15
6. □ 新入会員紹介		18
7. □ 会員によるコンサート案内		19
8. □ 寄贈図書		20
9. □ 学会からのお知らせ 『音楽表現学』Vol.4□ 原稿募集 他		21
10.□ □ 学会からのおねがい		22
11.□ □ グリーン・アベニュー大会参加申込書書式		23
12.□ □ 「コンサート等後援願」書式		23
13.□ □ 「入会申込書」書式		24
14.□ 役員名簿・編集後記		24

日本音楽表現学会事務局

〒700-8530 岡山市津島中3-1-1 岡山大学教育学部 奥研究室気付

Tel.□ &□ Fax.□ 086-251-7647 E-mail:□ s-oku@cc.okayama-u.ac.jp

http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~eeakita/kitayama/OHG-index.htm



郵便振込口座：01370=6=78225 音楽表現学会

銀□ □ □ 行□ □ □ □ 座：三井住友銀行□ (0009)□ 岡山支店□ (651)□ 日本音楽表現学会□ (普)□ 66394

日本音楽表現学会会長 中村 隆夫（指揮）

昨年10月末から1週間、北京にある中央音楽学院の主催で“Kodaly-Week”（コダーイ週間）が開かれ、世界から招かれた10人ほどのゲストの一人としてこれに参加する機会を得ました。運営の中核はかつてハンガリーに学んだことのある教授たちが担っていました。コダーイの音楽教育にかかわるシンポジウムやコースは毎年世界の各地で開かれています。今回の企画は中国で開く初めての本格的なコダーイ講座とあってよいようです。

近年、中国や韓国の文化活動の発展には目を瞠めるものがありますが、今回北京を訪れてみて、音楽教育においても私たちが知らないところで真摯な取り組みが進んでいることにおどろきました。会期中、中央音楽学院におけるソルフェージュや合唱、大学院生が指導する小学生の授業などが紹介されましたが、その内容と水準は私が30年以上も前にハンガリーを訪れたときに受けた衝撃に匹敵するものでした。印象的だったのは学生たちの真剣な眼差しと積極的な参加の姿勢です。ワークショップに登場した子どもたちの歌声も、のびやかで生き生きとしていました。聞くところによると2000年に初めてハンガ

リーからコダーイ・メソッドの専門家を招き、それ以来今日までその方法を継続しつつ音楽教育の充実に取り組んできたとのことでした。

短期間のうちにこれまでの成果を挙げるために、関係者の努力も並ならぬものがあったことでしょう。開会式には教育副大臣も出席し、「これからの中国は経済だけではなく芸術文化、それもとりわけ音楽文化の興隆によっていっそうの発展を迎えることを確信します」と20分にもおよぶスピーチで熱っぽく語りかけていました。この音楽教育は始動してから日が浅く、未だ中国全体のものとはなっていませんが、今後の広がりがおおいに注目されるところです。

わが国の音楽文化についていえば、かつての中央集中から少しずつ地方にも独自の活動が広がりつつあるように思います。本学会もこのことを反映してか、短期間のうちに発表者は全国におよび、内容も多岐にわたってきました。近い将来、私たちの研究活動が近隣諸国との交流とも結びつき、よりいっそう発展する日がくるかもしれない、とひそかに期待しています。



中央音楽学院合唱

音楽表現の力 設立からこれまでの学会活動を振り返って

小西 潤子 (2002, □ 2004-5年度理事)

この数年間、世の中すべてが激動しているように思える。それは、私がある程度周囲を見渡せるような状況におかれたからかも知れないし、そういう中で自分自身が動くことを要求される年代になったからかも知れない。それにしても、少子化、環境破壊など大きな社会問題を背景に目まぐるしく展開される教育改革に振り回されて辟易しているのは、私だけではないはずである。日本音楽表現学会が設立されたのも、こうした情勢に呼応してのことだった。つまり、さまざまなかたちで音楽表現に関わる人々が集結し議論を重ねることによって、自らのアイデンティティを確認するとともに、音楽表現の素晴らしさや重要性をより多くの人々に広める活動を展開するための力を得る場が求められたのである。以前のように、個別の活動をしているだけでは世の中の圧力に押しつぶされかねない、という危惧感が抱かれたのであった。しかも、俊敏に事を運ぶ必要に迫られていた。

「果たして、どれだけの人々とこの思いを分かち合うことができるだろうか？」—広島のエリザベト音楽大学における設立大会は、こうした不安を打ち消しながらとにかく「学会設立」を既成事実にすることを第一目標に開催された、といっても過言ではなかろう。決して十分とはいえない限られた準備期間のうちに学会としての制度設計と組織化を平行して進めなければならなかったため、不手際や不備があって当然であった。しかし、いざ開催するや、こうした問題点はさほど大きな影響を及ぼさなかったように思われる。音楽表現そのものが、すべてを超える力を発揮したからである。新鮮な空気に包まれながらも、瞬く間にコミュニケーションの輪が広

がったのである。

ここで得られた自信を糧に、奥事務局長指揮のもとで規約など制度の確立や学会誌創刊に向けての準備、日本学術会議への参入手続き等、学会として自他共に認知されるために必要な作業を行った。その間、北海道では中村会長を中心に「ライラック大会」の準備が着々と進められていた。まずは、学会の大会に洒落た愛称をつけるという発想に感銘を受け、北海道の美しい街並みとおいしい料理、そして何よりも大会スタッフのチームワークのよさや、きめ細やかで暖かい対応に心を打たれた大会となった。学会の輪は、より親密にかつ拡大した。

静岡での「アクアブルー大会」では、実行委員の一人として企画運営を行ったことにより、一般の学会参加者とは異なる立場で大会に臨むことができた。直前まで参加者人数が見込めずに右往左往したり、学外の会場を借り上げたことに伴う細かな経費のやりくりが求められたりしたが、松下実行委員長を筆頭に静大スタッフが一丸となって対応した。これによって、「学会の開催はスタッフの仲違いのもと」という私のトラウマは、完全に消え去った。そして、大会プログラムが不足するほど多くの参加者が集まったのは、本当にうれしかった。

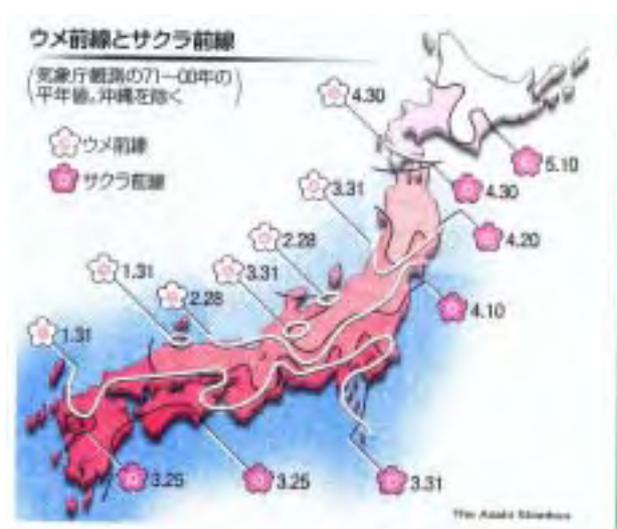
このように振り返ると、学会の設立と大会の開催によって、集結することで得られる力の大きさを実感できたにとどまらず、音楽表現そのものの力を再認識できたといえる。岡山での「グリーン・アベニュー大会」では、緑の息吹に囲まれて、全国からの素晴らしい音楽表現の活動成果が通りに響き渡るのではないだろうか、今から待ち遠しく思われる。

春に思う 気候と音楽

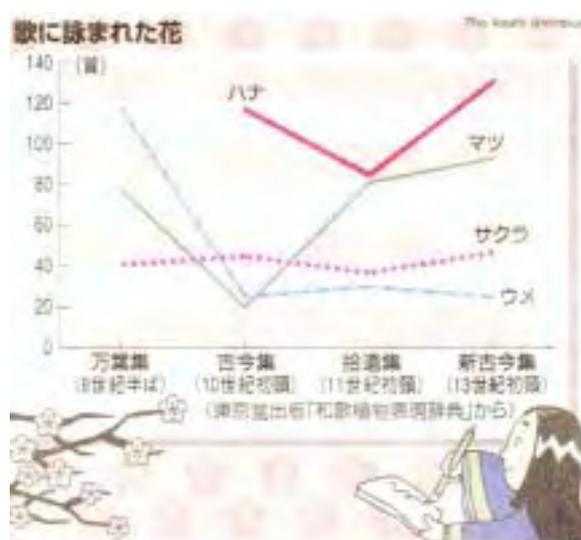
加藤 晴子（くらしき作陽大学）

日本列島を桜前線が北上し、各地で開花の便りが聞かれるようになりました。♪春は名のための風の寒さや～と歌われた頃を過ぎ、♪春のうらの隅田川～と歌いたくなるような時期の到来です。

ところで、私たちの周りを見ると、春を待ちわびる、春を愛でる、あるいは行く春を惜しむ等、様々に春を歌った音楽や文学が数多くあります。日本の春は、二十四節気という立春、雨水、啓蟄、春分、清明、穀雨と進む中で、様相が移り変わっていきます。春を歌った歌の背景には、そのような季節変化、冬から春への気候の変化が人々の心理に大きく影響しているのではないのでしょうか。



ウメ前線とサクラ前線
(朝日新聞2006,2,5)



歌に詠まれた花
□ □ □ (朝日新聞2006.3.26)

私は、このような気候やその変化に着目しています。現在、ドイツ古典派、・ロマン派の歌曲や日本の童謡、唱歌、芸術歌曲にみられる春の音楽表現について、当該地域の気候との関係から研究を進めています。音楽の背景にある気候について知ることは、歌曲の生成について考えたり音楽表現を行う等、音楽を総合的に理解する上で欠かせないと考えています。研究のプロセスを通して、音楽の学習では、感覚的な感受に加えて、気候等の音楽作品の背景にあるものに対する科学的な目が必要であることを強く感じています。他方、理科の学習では、自然科学的なアプローチに加えて、芸術作品等にみられるような人の感情が及ぼすものに対する目も必要があるのではないのでしょうか。

そこで、音楽と理科（気象）を連携させた学習プランを設定し、4月半ばに小学校で授業実践を行うことを計画しています。その結果について、6月に行われる「岡山グリーンアベニュー大会」で発表できればと思っています。

2006-7年度 会長・理事選挙について

2006-7年度選挙管理委員会
委員長 長岡 功

2006-7年度会長・理事選挙は、2005年11月30日の選挙公示（ニューズレターNo.2）を受けて、推薦・立候補の受付を2006年3月1日に開始し、3月31日に閉め切りました。今回の選挙では立候補者はなく、すべて推薦による候補者で、会長1名、理事6名が所定の手続きに則って推薦されています。ここに届け出のあった推薦者と候補者を報告し、選挙有資格者による投票の段階に入ることをお知らせします。

投票要領：以下の手順によってお願いいたします。

1. 選挙人名簿で自分のご氏名をご確認ください。
2. 各候補者について、記載事項をご覧の上、□ ご確認ください
3. 投票用紙に候補者氏名をご記入ください。会長は緑色用紙に1名、理事は黄色用紙に6名連記です。お間違えのないようにお願いします。
4. 投票用小封筒に投票用紙を入れてのり付けしてください。この封筒にはご自分の氏名を記入されないよう、くれぐれもご注意願います。
5. 返信用の緑長3封筒に、投票用小封筒を入れて、封筒の裏側にご自分の氏名をご記入の上、切手を貼らずにご投函ください。なお、選挙費用節減のために、郵便料が後納できる研究室用封筒に学会印を捺して用いています。ご了承をお願いいたします。
6. 投票期間は、4月1日(土□)～4月30日(日□)（当日消印有効）です。必ず期間中にご投函いただきますようお願いいたします。

開票作業と選挙結果の報告：選挙管理委員会では作業を以下のように進めます。

1. 事務局に届いた緑の長3封筒は、選挙管理委員会で開封して、投票用小封筒を別にします。
2. 選挙管理委員会は投票用小封筒を開封して、開票作業を行います。
3. 選挙結果は、直ちに会長に報告し、会員には6月17日（土）の2006年度総会において報告します。

候補者一覧

会長候補者：中村 隆夫（学会発足時1年の例外措置を除いて2期目） 推薦者：北山 敦康，土門 裕之
理事候補者：安藤 政輝（学会発足時1年の例外措置を除いて2期目） 推薦者：加藤富美子，安田 香
奥 忍（学会発足時1年の例外措置を除いて2期目） 推薦者：河本 洋一，降矢美彌子
森川 京子（学会発足時1年の例外措置を除いて2期目） 推薦者：小林 冬子，木下 千代
川口 容子（1期目） 推薦者：杉江 淑子，坂東 肇
権藤 敦子（1期目） 推薦者：原田 宏司，菅 道子
佐々木正利（1期目） 推薦者：草下 實，山田 啓明

日本音楽表現学会 2006-7 年度 会長・理事選挙 選挙人名簿

阿方 俊	浅井 芳子	浅川 広子	浅野 清	安達 雅彦
阿部 祐治	阿部亮太郎	荒川 恵子	有田 昌代	安藤 珠希
安藤 政輝	飯島 元子	石原 慎司	市野 啓子	一橋 和義
井戸 和秀	伊野 義博	井花 範子	今関由紀子	内田陽一郎
越後小百合	應和 恵子	大岩みどり	大島 晶子	大槻 寛
大山佐知子	岡 健吾	岡本 茂朗	奥 忍	尾崎 浩一
小貫多喜子	小野 文子	影山 建樹	桂 博章	加藤富美子
加藤 晴子	加藤 充美	兼重 直文	亀井 良幸	川口 容子
川西 孝依	川端英美歌	川端 美穂	河村 義子	河本 洋一
菅 道子	北山 敦康	木下 千代	木村 貴紀	草下 實
熊谷百合子	後藤 丹	小西 潤子	小畑 郁男	小林 荃子
小林なほみ	薦田 義明	近藤 晶子	権藤 敦子	今 由佳里
斉田 好男	阪本 幹子	佐川 馨	酒匂 淳	佐々木 茂
佐々木正利□□□	佐藤 倫子	□ 佐野 仁美	澁谷 由美	清水 稔
下道 郁子	新山王政和	杉江 淑子	鈴木 淳雄 (常磐津文字兵衛)	
鈴木 昇畝	鈴木慎一郎	曾我 淑人	高久 暁	高須 一
高瀬 瑛子	高橋 範行	武知 優子	竹本 千智	田島 孝一
田代 和久	伊達 優子	田中 健次	谷口 雄資	谷 慶郎
田畑 八郎	玉井 裕子	陳 敏	寺内 大輔	伴谷 晃二
土門 裕之	豊田 典子	長岡 功	長坂 由美	長瀬 正典
中畑 淳	中村 滋延	中村 順子	中村 隆夫	中村 慶彦
鍋島 史	新山 眞弓	西岡 信雄	二橋 潤一	野崎 博子
野田 廣志	野村 満男	野本 立人	袴田 和泉	羽広 志信
濱永 晋二	原田 宏司	原田 博之	原 佳大	坂東 肇
樋口 英子	尾藤 弥生	平尾多美納	深井 尚子	藤井 一男
藤田 光子	藤野 祐一	藤本いく代	藤原 嘉文	降矢美彌子
宝福 英樹	保坂 博光	堀田 光	L.マクガレル	松岡 貴史
松尾 純	松下 允彦	松本 清	松本 進	三木 康子
宮田 信司	三好 恒明	虫明眞砂子	村尾 忠廣	村上 理恵
村澤由利子	目黒 雅子	茂木 美和	望月由美子	森川 京子
森 恭子	森 正	守屋美枝子□	安井 祐子	八杉 忠利
安田 香	柳井 修	柳沢 信芳	山崎 正	山下 恵理
山田 克巳	山田 啓明	山田 貢	山名 敏之	山本 茂夫
山本 文茂	吉澤 実	吉田 秀晃	吉田 秀文	吉永 早苗
吉永 誠吾	劉 麟玉	若井 健司		以上172名

候補者の紹介

会長候補者氏名：中村 隆夫（北海道教育大学教授）

専門分野：指揮

学歴： 1967 北海道教育大学札幌分校特設音楽課程卒業（教育学士）

研究歴： 1972-73 ハンガリー，リスト音楽院にて指揮，ソルフェージュの研究に従事

1994-95 ロンドン大学東洋アフリカ学院にて研究に従事（10ヶ月）

1996 シベリウス音楽院（1ヶ月），リスト音楽院（6ヶ月）にて研究に従事

職歴： 1969 北海道教育大学助手札幌分校採用（1974□ 講師，1977□ 助教授）

1988-現在 北海道教育大学教授□ 教育学部札幌校

主な業績：

<演奏>：1976年以来札幌コダーイ合奏団・合唱団指揮者として活動し，現在にいたる。レパートリーの中心はバロックおよび現代で，これまで古典では「メサイア」，バッハの「ヨハネ受難曲」「マタイ受難曲」等の管弦楽付き作品，近現代ではバルトーク，コダーイをはじめとするハンガリーの作品，イギリス，北欧の作品（主にアカペラ）等，およそ500曲を演奏してきた。

（その他）・コダーイ《ハーリ・ヤーノシュ》全曲演奏（日本初演），北海道教育大学音楽科定期演奏会，1982

・札幌大オペラ公演：モーツアルト《魔笛》《ドン・ジョバンニ》，チャイコフスキー《エウゲニ・オネーギン》，スメタナ《売られた花嫁》等12公演の指揮

・札幌シンフォニエッタ，ARS室内合奏団，地域オーケストラへの客演指揮多数

<著書>：・「『おんがく』のあり方を考える」北海道教育大学『教科教育の研究』収録，1991

・「ソルフェージュを組み込んだ音楽教育再考」（共著），日本音楽教育学会30周年記念論文集『音楽教育学研究2』，音楽之友社，2000

・「路地で遊べなくなった子どもたちはどこでわらべうたを歌えばよいのか」，北海道教育大学教科教育学研究図書委員会編，東京書籍，1999

・“Children Who Cannot Read Music and University Students Who Cannot Solve Arithmetic Questions”，*Bulletin of the International Kodaly Society*, Vol. 28 no.2, Autumn 2003

・「ベートーヴェンはどのようにルドルフ大公を見送ったか」『音楽表現学』Vol.2, 2004

（翻訳）・コダーイ音楽劇《ハーリ・ヤーノシュ》，全音楽譜出版社，1982

（訳・編）・ハンガリー合唱名曲選1「マートルの風景」，全音楽譜出版社□，1995

・ハンガリー合唱名曲選2「モルナール・アンナ」，全音楽譜出版社□，1997

・ドビュッシー《牧神の午後への前奏曲》ピアノ編曲版，全音楽譜出版社，2006出版予定

学会や社会における活動：

1972-現在 日本音楽学会会員

1974-現在 日本コダーイ協会会員 副会長（1999-現在）

1974-現在 日本音楽教育学会会員 北海道地区理事（1999-2001）

2003-現在 日本音楽表現学会 発起人代表，会長

その他：平成14年度札幌文化奨励賞受賞

推薦者名：北山 敦康，土門 裕之

推薦理由： 中村隆夫氏は，本学会設立にあたって発起人代表を務め，発足以後は会長としてその職責を

全うしてられました。これまでの学会運営は決して容易なものではありませんでしたが、同氏の公正かつ冷静な判断は、発足間もない本学会の問題を幾度となく解決の方向へ導きました。

また、別添の経歴書でもおわかりのように、同氏のこれまでの演奏と著作における幅広い業績および社会的活動における豊かな経験は、その温厚な人柄とともに本学会の会長としてふさわしいものであることは言うまでもありません。

日本音楽表現学会は設立期の困難を乗り越え、これからはその発展の時期を迎えようとしています。この重大な局面において本学会の一層の発展を願い、2004-2005年度に引き続き、中村隆夫氏を2006-2007年度の会長候補者としてご推薦申し上げます。

理事候補者氏名：安藤 政輝（東京芸術大学教授）

専門分野：邦楽・箏曲

学歴：1969 慶應義塾大学文学部文学科国文学専攻卒業
1976 東京芸術大学大学院音楽研究科修士課程箏曲専攻修了
1982 東京芸術大学大学院音楽研究科博士後期課程邦楽研究領域修了

職歴：1984-1993 東京芸術大学音楽学部邦楽科非常勤講師
1990-1995 群馬大学大学院非常勤講師
1991,□ 1995 山梨大学非常勤講師
1992-2005 静岡大学非常勤講師
1994-現在 東京芸術大学音楽学部邦楽科助教授を経て、2005年より東京芸術大学邦楽科教授

主な業績：

リサイタル：1972-現在 第1回リサイタル 以後20回
1990-現在 「宮城道雄全作品連続演奏会」開催
受賞：1957 全国邦楽コンクール三曲児童演奏の部 第1位
1966 宮城会主催第1回コンクール 第1位
著書：1976 『三曲の基本と指導』, 講談社
1986 『生田流の箏曲』, 講談社
2003 『箏～さくらを弾きましょう～』, ビクター伝統文化振興財団
論文：1983 「箏と十七弦における撥弦動作の時間的解析」『東京芸術大学紀要』
1989 'Koto□ Scales□ and□ Tuning',□ "The□ Journal□ of□ the□ Aciatytical□ Socan"

学会や社会における活動：

日本音楽表現学会, 日本音楽教育学会, 日本音響学会, 日本音楽知覚認知学会, 東京都立日比谷高等学校運営委員会委員, (財)音楽文化創造評議員, (財)野村学芸財団評議員・選考委員, (財)日本三曲協会評議員

推薦者名：加藤富美子, 安田 香

推薦理由：安藤氏は、1945年東京生まれ、慶應義塾大学文学部国文学科専攻を卒業後、東京芸術大学大学院音楽研究科博士課程邦楽研究領域を修了、1982年「箏と十七絃における撥絃動作の時間的解析」と題する論文により学術博士の学位を取得されました。現在、東京芸術大学にて後進

の指導にあたっておられます。

研究業績については、生田流箏曲演奏の第一人者として1972年から現在まで20回のリサイタルを開催、宮城道雄全作品連続演奏会を1972年から現在まで8回重ねるなど、活発な演奏活動を展開されています。東京芸術大学の他、群馬大学大学院、山梨大学、静岡大学の講師として教育活動を展開するとともに、楽器、レコード、テープ、CDなど多数の業績を持ち、イギリスをはじめとする海外演奏も15カ国以上に及んでいます。

氏は、日本音楽表現学会設立に向けて準備段階からご尽力をいただき、現在、本学会の理事としての責務を果たされています。その見識は学会の知性を代表するものであり、広く社会に向けて開かれた学会という側面において、特に欠かせない存在であります。

氏の虚飾のない振る舞い、発言は、信頼に足るものです。また、理系の思考に優れ、さまざまな現象を的確に整理・考察する能力を持っておられます。ユーモアのセンスもお持ちで、氏との会話は楽しいものです。写真撮影がお上手で、学会誌などには氏による写真が多く載せられています。

結論として優れた識見および人格の持ち主であり、音楽的力量など全ての面において、本学会理事としての資質・能力を備えた人材として安藤政輝氏を高く評価し、ここに責任をもってご推薦申し上げます。

理事候補者氏名： 奥 忍（岡山大学教授）

専門分野：音楽教育学，ヴァイオリン

学歴： 1965 東京芸術大学音楽学部楽理科卒業

1982-1983 Special Short Course, Institute of Education, London University

職歴： 1965-1969 京都府立木津高等学校教諭

1969-1992 奈良教育大学講師→助教授

(1984-1985) Visiting Research Fellow, Melbourne University (豪日交流基

(1988) Universitaet fuer Musik und darstellende Kunst, Wien (在外僱傭)

1992-2001 和歌山大学助教授→教授

2001-現在 岡山大学教授

2002-現在 兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科教授

- 最近の業績：
- ・「音楽教員養成機関における入学試験制度に関する比較教育学研究」『音楽教育学研究 1』日本音楽教育学会編，音楽之友社，pp.349-362，2000
 - ・「寮歌の伝承と歌唱における日本の伝統的リズム」『関西楽理研究』XVII，関西楽理研究会，pp.37-52，2000
 - ・『生涯学習時代の音楽教育』日本音楽教育学会第7回音楽教育ゼミナール報告書企画・構成，編集等，pp.1-150，2002
 - ・「民話をミュージカル化する—コミュニケーション能力の育成」『音楽学習のフロンティア』，玉川大学出版，pp.5-25，2003
 - ・「和歌朗詠にみるリズム操作—百人一首朗詠を中心に」『音楽表現学』Vol.1，日本音楽表現学会，pp.23-32，2003
 - ・「教員養成における音楽コア・カリキュラムの編成をめぐって」『関西楽理研究』Vol. XX，関西楽理研究会，pp.145-150，2003
 - ・「教育学研究科における生涯学習推進力育成のための教育課程」『生涯学習時代における芸術教育のあり方』，平成16年度岡山大学教育学部重点研究推進助成費，2005

- ・「物語る音楽の創作—音楽と絵画の関連性の視点から」『関西楽理研究』XXII, 関西楽理研究会, pp.65-80, 2005
- ・「日本の学校音楽教育における儀礼」『音楽と儀礼』ビーレフェルと大学研究出版シリーズ (in German), 2006出版予定

学会や社会における活動：

日本音楽表現学会（発起人，事務局担当副会長），日本音楽教育学会（常任理事，地区代表理事，編集委員等歴任），International Society for Music Education (ISME) 常任理事「学校音楽教育と教師教育委員会」委員など歴任），International Association for Study of Popular Music, 日本音楽知覚認知学会，日本音響学会，日本民俗音楽学会，芸術教育実践学会，日本ポピュラー音楽学会，等々

その他：1984-5年度 学者・研究者のための奨励賞受賞 (Australia-Japan Foundation)

推薦者名：河本 洋一，降矢美彌子

推薦理由：奥忍氏は，1965年に東京芸術大学音楽学部楽理科をご卒業後すぐに高校の教育現場を経験され，その後，奈良教育大学を皮切りに和歌山大学・岡山大学等で要職を歴任され，その間 London University等の海外研究機関でも活躍された。

研究業績については，奇をてらわない着実な研究姿勢で，学校音楽教育のみならず，身近な音楽に目を向け，そこに内在する諸問題を，学問的領域まで高めている。その業績は日本国内のみならず，海外へ向けても広く発信されている。

また，本学会に関しては，設立の萌芽期からその準備に尽力された。現在は本学会の事務局長として多大なる貢献をされている。

氏は，しなやかな感性と鋭い洞察力を併せ持つ人物であり，歯に衣着せぬ物腰は，後進には良き刺激となり，同世代には心地良さを与えている。

以上のようにして，氏は研究者として，また教育者としても高い能力と感性を兼ね備えた人物であり，日本音楽表現学会理事にふさわしいと判断し，ここに推薦します。

理事候補者氏名： 森川 京子 （兵庫教育大学名誉教授）

専門分野： ヴァイオリン

- 経歴：** 1958.03 国立音楽大学器楽科ヴァイオリン専攻卒業
 1964.09 フィンランド国立シベリウスアカデミー留学
 1966.09 ウィーン・コンセルヴァトリウム教授 W. シュナイダーハンのもとに留学
 1967.06 四国女子短期大学音楽科講師
 1968.02 東京交響楽団入団
 1970.04 徳島大学教育学部非常勤講師
 1983.04 兵庫教育大学芸術系教育講座非常勤講師
 1983.04 兵庫教育大学芸術系教育講座助教授
 1994.08 文部省在外研究員としてイギリス，フランス，ドイツ，オーストリアにおいて研修
 1995.06 兵庫教育大学芸術系教育講座教授
 2005.03 兵庫教育大学芸術系教育講座定年退職
 1956.11 全日本学生音楽コンクール西日本大会第一位入賞
 2003.01 日本クラシック音楽協会優秀指導者賞受賞

主な業績：

<演奏> 1993.06 「信・弦楽四重奏団演奏会」東京サントリーホール

- 1996.10 日本室内楽振興財団助成公演「信・弦楽四重奏団演奏会」，徳島県郷土文化会館
 1997.02 日本室内楽振興財団助成公演「信・弦楽四重奏団演奏会」，兵庫県東条町文化会館
 コスミックホール
 1997.03 「森川京子室内楽シリーズーイギリス音楽の夕べ」，徳島県郷土文化会館
 1999.08 「森川京子室内楽シリーズ」，徳島県郷土文化会館
 2002.01 「森川京子室内楽シリーズードイツ音楽の夕べ」，大塚ヴェガホール
 <出版> 1995.04 『ヴァイオリンの基礎奏法と教材』音楽之友社
 <論文> 2003.03 「演奏芸術におけるヴィブラート（ヴァイオリン）の科学的解明ーヴィブラートの筋電図的研究」兵庫教育大学『学校教育学研究』第15号
-

推薦者名：小林 琴子，木下 千代

推薦理由：森川氏は，国立音楽大学器楽科ヴァイオリン専攻をご卒業後，フィンランド国立シベリウスアカデミーに留学，また，文部省在外研究員としてオーストリア，ザルツブルク・モーツァルテウム音楽院等において研鑽を積んでこられました。東京交響楽団員，徳島大学と兵庫教育大学の非常勤講師を経て，1984年から2005年まで兵庫教育大学において専任教員として教育・研究に携わってこられた方です。

氏の研究分野はヴァイオリン演奏法および室内楽曲を中心とした楽曲の解釈と音楽表現に関する研究であります。また，『ヴァイオリンの基礎奏法と教材』と『ヴィオラの基礎奏法と教材』を音楽之友社から出版され，教員養成大学の学生を主に対象とした大変ユニークな教則本を発表されました。この教則本は，今では中学・高等学校における課外活動でもよく用いられ，たびたび版を重ねていることから，氏が学習者の立場に立たれて作られたことが良くわかります。一方，氏はヴィブラートに関する一連の研究に筋電図を用いるなど科学的な解明も試みておられます。ご自身の演奏と音楽表現に関する指導法およびそれらに関わる科学的な解明という三つの側面からのアプローチは，本学会の目的と正に合致するものと考えます。

氏は本学会の発足にあたり，発起人として深く携わり，以後これまで学会の運営に寄与してこられました。優れた識見及び人格の持ち主であり，音楽的力量等，全ての面において，本学会理事としての資質・能力を備えた人材として森川氏を高く評価し，ここに推薦する次第であります。

理事候補者氏名： 川口容子 （京都教育大学教授）

専門分野：ピアノ

経歴： 1969 武蔵野音楽大学大学院修了

1969-1974 名古屋音楽短期大学（現名古屋音楽大学）勤務

1974-現在□ 京都教育大学勤務。1998年より教授

最近の研究業績：

- <演奏> 2005年8月 "Kammerkonzert" Pf.□ 川口容子,□ JACHYMOV□ St.□ JOACHIMSTHAL（モウ/チェコ）
 2005年5月 『国際交流演奏会』上海師範大学講堂
 2004年11月 『ローデンホイザー・クラリネットリサイタル』Pf.□ 川口容子，国際室内楽協会，日本大学カザルスホール
 2004年10月 『チャリティコンサート□ '04□ ミュンヘン発』NPOブッダ基金，浜松楽器博物館
 2004年10月 『平成16年度文化庁芸術祭参加公演：川口容子室内楽シリーズVol.6□ ーミュンヘ

- ン国立音楽大学教授・元ベルリンフィル首席クラリネット奏者を迎えて一ローデ
ンホイザー・クラリネットリサイタル』京都新聞社，京都コンサートホール(小)
- 2004年 3月 "Kammerkonzert" Pf.川口容子, □ JACHYMOV □ St. □ JOACHIMSTHAL □ (ヤヒモフ/
チェコ)
- 2003年11月 デュオおよびソロコンサート，デトロイト・バーミングハムの教会(ミシガン
/U.S.A.)
- 2003年11月 『川口容子ミュージックリサイタル』デトロイト補修校 □ (ミシガン/U.S.A.)
- 2003年 4月 『ヴィアートル北白川教会コンサート』シュターミッツ弦楽四重奏団，グリ
ンカ：トリオ
- 2003年 3月 『カリヨンホールコンサート』シュターミッツ弦楽四重奏団，ドヴォルザーク：
ピアノ五重奏曲作品81，カリヨンホール
- <論文>2005年 4月 「小学校専門科目<音楽>の授業内容改善～音楽的基礎能力と指導力の養成を目指
して～」京都教育大学研究紀要，平井恭子と共著

推薦者名： 杉江 淑子，坂東 肇

推薦理由： 川口容子氏は，1969年に武蔵野音楽大学大学院を修了され，1969年～1974年名古屋音楽
短期大学（現名古屋音大）勤務の後，1974年～現在まで京都教育大学に勤務されています。
1998年からは同大学教授として，責任あるお立場からピアノの演奏・教育を中心とした教育研
究活動に携わって来られました。

研究業績については，リサイタル，室内楽，協奏曲，伴奏，現代音楽等の演奏活動に継続して意欲的に取
り組んで来られ， 国外では28都市から歓迎を受けて演奏しておられます。また，京都教育大
学附属高等学校レクチャーコンサートの企画指導を毎年続けて来られ，本年で10年を迎えられ
ます。こうした演奏会活動とともに，演奏作品や教育活動に関わるご研究も蓄積しておられま
す。

また，本学会への貢献に関しては，日本音楽表現学会の設立時からの会員でおられ，会計監
事としての役職を2年お務めになりました。お人柄は，音楽へご姿勢と同様，何事にも真摯な
態度で，まじめに誠実に取り組まれ，心から信頼できる方であります。同時に，仕事に対する
判断や反応も速く，かつ慎重でおられます。

以上に述べましたように，川口容子氏は，ご経歴，研究業績を通しての優れた識見，音楽的
力量をお持ちであると同時に，周囲からの信頼も厚く，全ての面において，本学会理事として
の資質・能力を備えた人材であられると確信し，ここに推薦する次第です。

理事候補者氏名： 権藤 敦子 （広島大学助教授）

専門分野： 音楽教育

経歴： 1985 東京芸術大学大学院音楽研究科修士課程音楽学専攻（音楽教育）修了
1985-1986 広島大学附属小学校非常勤講師，エリザベト音楽大学非常勤講師
1986 エリザベト音楽大学講師
1994-2006 □ エリザベト音楽大学助教授 □
2006-□ 現在 広島大学大学院教育学研究科助教授

主な研究業績：

<執筆>・「民衆の音楽活動と唱歌教育の関連性についての一考察－東京都台東区住民の実態調査にも
とづいて－」『音楽教育学』第15号、1986

- ・「明治大正期の演歌における洋楽受容」『東洋音楽研究』第53号、1988
 - ・「芸能科音楽の成立経緯」『音楽教育の研究』（浜野政雄監修）音楽之友社、1999
 - ・「諸外国で行われている評価の視点と方法」『CD-ROM版音楽科教育実践講座』（理論編3）日本文教社、2004
 - ・「音楽の技能と技術」河口道朗監修『音楽教育の思想と教育』（音楽教育史論叢第1巻）開成出版、2005
 - ・「唱歌教育におけるわらべうた曲集の意味－教材化への視点を中心に－」『音楽表現学』vol.□3、2005
 - ・「昭和初期の東京市三河台尋常小学校における音楽教育の実践－坊田壽眞の読譜指導と器楽指導を中心に－」『音楽教育史研究』第8号、2005
- <共訳>・『音楽教育研究入門』（R.□ P.□ フェルプス著）音楽之友社、1984
- ・『最新音楽教育事典』（S.□ ヘルムス他著）開成社、1999

学会や社会における活動：

日本音楽教育学会、東洋音楽学会、日本教育方法学会（2003-2005会計監査）、音楽教育史学会（1999-2003学会誌編集委員）、日本民俗音楽学会、日本音楽表現学会（2003-2005学会誌編集委員）他。

子どもたちと広響による音楽づくりコンサート企画委員、全日本音楽教育研究会中学校部会全国大会指導助言者、呉市小学校教育研究会講師、広島県高等学校総合文化祭「邦楽部門」指導講師他。

推薦者名：原田 宏司，菅 道子

推薦理由： 権藤氏は、上智大学文学部英文科をご卒業後、東京芸術大学大学院音楽研究科修士課程音楽学専攻（音楽教育）を1985年に修了、広島大学教育学部教育方法学研究室研究生、エリザベト音楽大学および広島大学附属小学校での非常勤講師を経て、1986年にエリザベト音楽大学に専任講師として赴任されました。以後、同大学で、音楽学科音楽教育コース、音楽文化学科に所属し、学部、修士課程、博士後期課程の教育と研究活動に携わって来られました。

氏の専門分野は、近代日本における洋楽受容史に関する研究、唱歌教育の歴史的研究、音楽科における教師の専門的力量形成に関する研究という3つの領域に大別されます。氏の論文のなかで、「明治大正期の演歌における洋楽受容」（1988年）はMGG（1996年）第4巻“Japan”の項目に参考文献として紹介されており、また、昨年『音楽表現学』vol.3に原著論文として掲載された「唱歌教育におけるわらべうた曲集の意味－教材化への視点を中心に－」（2005年）も、その独自性を高く評価されました。

氏は、本学会の発足に当たり、設立大会会場校における実行委員として大会の成功に尽力し、2005年までの2年間は学会誌編集委員として学会の運営に寄与してこられました。優れた識見および人格の持ち主であり、本学会理事としての資質・能力を備えた人材として権藤氏を高く評価し、ここに推薦する次第です。

理事候補者氏名 佐々木正利 （岩手大学教授）

経歴 1982 東京芸術大学大学院音楽研究科博士課程(声楽専攻)単位取得満期退学
1982-2006 岩手大学教育学部助手～教授
1998 日本声楽発声学会理事（現在に至る）

主な研究業績

- 1995 日本発声指導者協会常任理事（現在に至る）
2002 日本教育大学協会全国音楽部門大学部会副部長（現在に至る）
1985 テノール独唱.□ 戴冠式ミサ曲(モーツァルト), マニフィカト(バッハ)
ザルツブルク夏期音楽祭, バーダー指揮モーツァルテウムOrch. □
1987 テノール独唱.□ オラトリオ「四季」(ハイドン)
NHK交響楽団定期演奏会, H.シュタイン指揮, NHKホール
1990 テノール独唱.□ マタイ受難曲(バッハ)
ライプツィヒ・ゲヴァントハウスOrch.聖トマス教会Chor, 名古屋市民会館
1999 テノール独唱.□ 口短調ミサ曲(バッハ),□ ドイツ・バッハ・ゾリステン,
H.ヴィンシャーマン指揮, ボン・ベートーベンホール
2000 合唱指揮.□ 交響曲第3番(マーラー)
□ R.シャイー指揮ロイヤルコンサートヘボウOrch., 石川県立音楽堂
2001 指揮.□ 交響曲第6番「Interdependence」(ノルトグレン)世界初演,
仙台フィルハーモニー管弦楽団, 宮城県民会館大ホール
-

推薦者名：草下 實, 山田 啓明

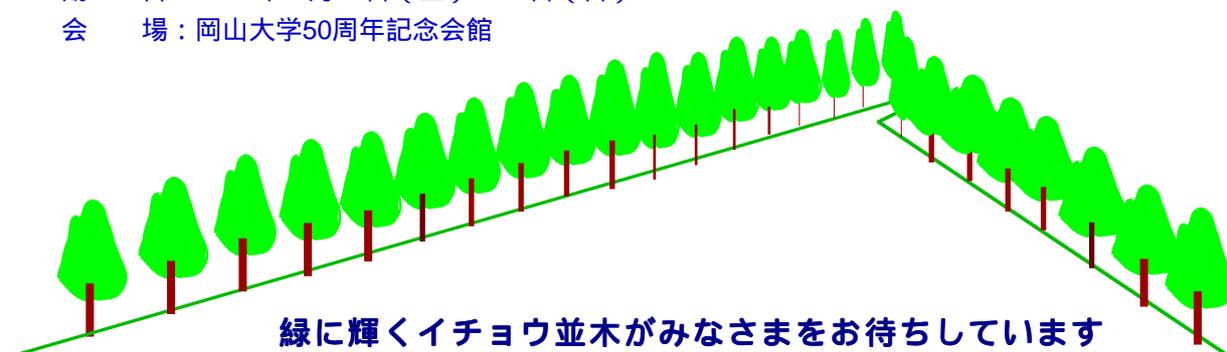
推薦理由：氏は1973年東京芸術大学音楽学部声楽科卒業, 1976年東京芸術大学大学院音楽研究科修士課程(独唱専攻)修了, 1980-82年の間Nord-West□ Deutsche□ Musikhochschule,□ Detmoldへ留学, さらに1982年東京芸術大学大学院音楽研究科博士課程(声楽専攻)単位取得満期退学され, 現在岩手大学教育学部教授として教鞭をとっておられます。その一方では, 日本声楽発声学会理事, 日本発声指導者協会常任理事, 日本教育大学協会全国音楽部門大学部会副部長, 二期会会員, 仙台バッハ・アカデミー常任理事, オーケストラ・アンサンブル金沢合唱団指揮者, 東京21合唱団指揮者等の役員やソリスト, 指揮者として幅広い演奏活動をされており, さらに1987-88年にはH.リリング国際バッハ・アカデミー, テノール・マスタークラス講師, 1994-98年の間, 国際ベルヴェデーレ・オペラ・オペレッタコンクール審査員を務めるなど国内外で活躍されております。また, 1980年には□第6回ライプツィヒ国際バッハ・コンクール声楽部門第5位入賞, 1995年には第47回岩手日報文化賞(学芸部門)受賞, 2000年にはアメリカ・イオンド大学から名誉博士号を授与されています。

氏は本学会発足時から学会員として学会の発展に寄与しており, 氏のグローバルな演奏活動や教育・研究を通じた成果は, 将来に向けて本学会の発展と音楽表現学の体系づけに大いに貢献するものと確信する。氏の優れた演奏技能, 高い識見による音楽解釈, それらに裏付けられた指導力と真摯な研究への姿勢, および人格を鑑み, 全ての面において, 本学会理事としての資質・能力を備えた人材として佐々木正利氏を高く評価し, ここに推薦する次第です。

日本音楽表現学会第4回大会 グリーン・アベニュー（岡山）

大会の概要
決定!!!

期 日：2006年6月17日（土）～18日（日）
会 場：岡山大学50周年記念会館



日本音楽表現学会第4回(グリーン・アベニュー)大会概要

1. 期日：2006年6月17日（土）～18日（日）
2. 会場：岡山大学50周年記念会館（岡山市津島中1-1-1）
3. 日程：
 - 6月17日（土）
 - 12:30 開場・受付
 - 13:00 開会・オープニング演奏
 - 13:15 基調講演 五嶋みどり（ヴァイオリニスト）「これからの演奏家の理想の姿」
＜趣旨＞ 音楽の社会に対する役割は時代とともに変わってきています。音楽家も然り。音楽を演奏しているだけでは十分といえない時代になってきました。日米両国でのアウトリーチ活動の経験をもとに、これからの音楽家の“理想の姿”を皆さんと一緒に考えたいと思います。
 - 14:00-15:30 シンポジウム「音楽家の活動ーコミュニティー・エンゲージメント」
シンポジスト：五嶋みどり，津上 智美（神戸女学院大学）松本 勤（天理小学校）
司会：奥 忍（岡山大学）
 - 15:30-16:30 総会
 - 17:00-18:30 分科会Ⅰ ワークショップ A, B, C,
 - 19:00-21:00 懇親会 於：ピーチ4Fレストラン
（岡山大学創立50周年会館からグリーン・アベニューを隔てて向かいの建物）
 - 6月18日（日）
 - 9:00 受付
 - 9:15-10:45 分科会Ⅱ
 - 11:00-12:30 分科会Ⅲ
 - 13:30-15:00 分科会Ⅳ
 - 15:15-16:45 分科会Ⅴ
 - 16:45-17:00 閉会
4. 分科会の内容：
 - ワークショップ
 - Room A 山田 貢（チェンバリスト） バッハの無伴奏曲の鍵盤化（仮）
 - Room B 鈴木 昇畝（尺八演奏家） 尺八って何なの？（仮）
 - Room C 鶴澤 友球（義太夫節三味線奏者・南あわじ市立北阿万小学校）
義太夫節を語ってみようー表現してこそ面白い“語り物への誘いー”

5. 会場（岡山大学津島キャンパス 創立50周年会館）へのアクセス

詳細は<http://www.okayama-u.ac.jp/jp/access.html#tsushima>。バスの時間表などもゲットできます。

A) 岡山までJR利用→バス利用

- ・岡山駅前から岡電バス「岡山大学・妙善寺」行に乗車、「岡大西門」で下車。
- ・岡山駅前から岡電バス「津高営業所」行に乗車、「岡山大学筋」で下車、徒歩約7分。

上記2路線は市内を廻るため時間がかかります。

- ・岡山駅西口から岡電バス「岡山大学・岡山理科大学」行に乗車、「岡大西門」で下車。

B) 岡山までJR利用→タクシー利用

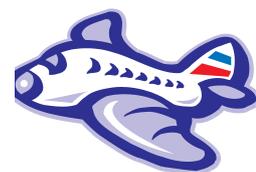
- ・岡山駅西口からタクシー 約7分。
- ・岡山駅東口からタクシー 約9分。タクシーの運転手に必ず「津島キャンパス」とお告げください。



C) 岡山までJR利用→津山線「法界院」駅で下車 徒歩約15分。

D) 岡山まで航空機利用

- ・岡山空港から中鉄バス「岡山市内方面」行に乗車、「岡山大学筋」で下車、徒歩約7分。



E) 岡山まで山陽自動車道利用

- ・岡山ICで降り、岡山市内方面へ国道53号線を直進、右手に岡山県総合グランドの木々が見え始めたら約600メートルの岡山大学筋を左折、岡山大学構内に入って1つめの信号の後、左に入る。



6. 大会要項

5月中旬に完成予定。会員のみなさまにあらかじめ送付します。

7. 参加申し込み

準備の都合上、参加者数を把握したく思います。23頁の参加申込書の様式を用いて、

5月31日までにメールか郵送でお申し込みの上、参加費を年会費とともにお振り込みください。

8. 参加費	正会員	4,000円
	当日会員（1日につき）	2,500円
	学部学生（1日につき）	1,500円
懇親会費	正会員	5,000円
	学部と修士課程の学生	3,000円

9. 宿泊

同日に、大学のすぐそばの運動公園で行われる全国大会と重なり、近くのホテルはすでに満杯になっています。そこで、JTB岡山にお世話していただくことになりました。同封のちらしをご覧ください。お申し込みください。

10. 実行委員会組織 実行委員長：井戸 和秀

実行委員：阿部 祐治、大山佐知子、奥 忍、小野 文子、加藤 晴子、
加藤 充美、佐藤 倫子、長岡 功、守屋美枝子、三好 恒明、
柳井 修、吉永 早苗

グリーン・アベニュー大会には会員の発表申し込みが、共同発表も含めて26件ありました。これらに13名の司会者が関わります。総勢50数名がステージに上がる大会になります。まさに、会員が自分の発表をもって参加し、参加者とともに切磋琢磨し、研究を発展させる学会になってきました。今年は発表を見合わせた方も、来年度の準備も兼ねて、ぜひご参加ください。



新入会員紹介

2005年12月以後に入会されたのは、吉澤 実さん（リコーダー・音楽教育）、伊達 優子さん（音楽教育・ピアノ）、三木 康子さん（ピアノ）、濱永 晋二（金管楽器の研究）、村上理恵さん（作曲）の5名です。日本音楽表現学会では個人情報保護法の施行によって新入会員のみなさまには自己紹介をお願いしています。今回は2名の新入会員に自己紹介分をいただきました。他の方々は次回に掲載させていただきます。

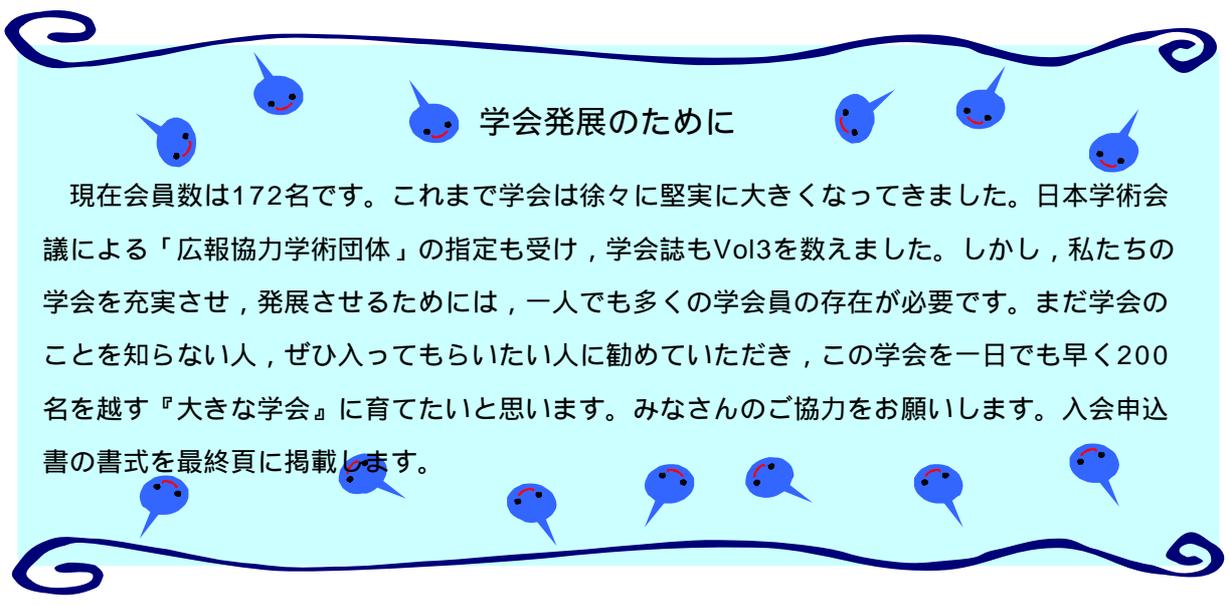
伊達 優子 さん

温暖な気候の岡山県で、保育学生のピアノ指導に携わっています（就実短期大学幼児教育保育学科）。学生たちと、心を通わせながら私自身も成長できれば・・・との思いで、より充実した授業を目指しています。最近では、「音楽は私たちの社会に何を示唆してくれるのだろうか？」という困難な命題にも取り組みたい気持ちが芽生えています。

“私たちにとって音楽とは”，“音楽の素晴らしさを学生たちに伝えるにはどうしたら”と、いつも思い悩んでいる私にとって、この音楽表現学会は、道しるべとなってくれそうな、大きな期待を持っています。皆様の情熱や思索から活力を頂いて、自らと向き合っていきたいと思っております。様々な分野の皆様との交流をととても楽しみにしています。

村上 理恵 さん

枚方市市民会館（□ ジェイコム）に所属しています。昨年の3月まで和歌山大学大学院生で、専門分野は作曲です。入会のきっかけは、もっと音楽に関する言葉を身につけていきたいという思いです。作曲した曲を演奏者に演奏していただくときに、曲の内容を演奏者に伝えることは作曲者の重要な仕事で、自分自身の作曲を言語化して伝えることの必要性を痛感しました。これまでの曲には、ピアノ、アコーディオン、シンセサイザー、トーンチャイム、グロッケン…などを使用し、演奏者と音について意見交換できるような編成にすることを心掛けて色々な楽器に挑戦しています。もちろん現代音楽に興味があります。これに加えて、常日頃考えていることがあります。それは、どうすればたくさんの人々が現代音楽に触れる機会を持つことができるのか、ということです。美術、造形分野では、現代アートの受け入れが進んでいるように見える反面、音楽分野ではまだまだ美術、造形分野ほど気軽に現代音楽と触れあう機会は少ないように感じます。これを受けて、現代音楽を人々が身近に感じることができ、気軽に触れることのできる現代音楽のコンビニのような空間を提案・提供することができたらと将来のこと考えています。

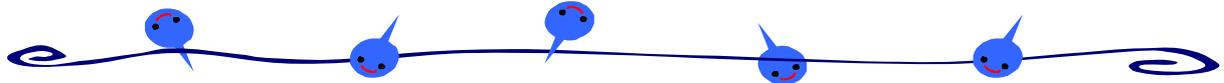


学会発展のために

現在会員数は172名です。これまで学会は徐々に堅実に大きくなってきました。日本学術会議による「広報協力学術団体」の指定も受け、学会誌もVol3を数えました。しかし、私たちの学会を充実させ、発展させるためには、一人でも多くの学会員の存在が必要です。まだ学会のことを知らない人、ぜひ入ってもらいたい人に勧めていただき、この学会を一日でも早く200名を越す『大きな学会』に育てたいと思います。みなさんのご協力をお願いします。入会申込書の書式を最終頁に掲載します。



会員によるコンサート案内



小畑郁男プロデュースコンサート

「ハンガリープロジェクト リスト、バルトーク、コダーイ、リゲティーの音楽」

□

□我々が西洋音楽として理解している音楽は、イタリア、フランス、ドイツを中心として発達してきた音楽である。その視点に立てば、ハンガリーは西洋の周辺に位置する。バルトークとコダーイは自らの民族の音楽を研究し、その価値を世に伝えた。特にバルトークは、その研究を通して得た知見を当時の先端的な音楽思考と結びつけることによって、創作の新たな可能性を提示した。異なった作風を持つ4人の作曲家の作品を同じ空間で聴くことによって、「民族と音楽」について考えるきっかけとしたい。

□

主な内容：□ リスト、バルトーク、コダーイ、リゲティーの音楽□（ピアノ曲、歌曲他）

演 奏：メゾ・ソプラノ：渥美京子、ピアノ：有馬 史、石松史子、サクソフォン：荒木浩一

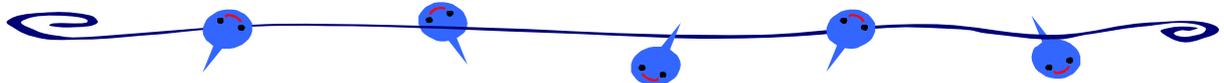
期 日□：2006年4月22日（土）18：30～

開 場□：旧香港上海銀行長崎支店記念館

入□場□料：一般 3000円、学生 2000円(高校生以下)

主 催：tward□

連□絡□先：小畑 095-862-1892



長岡 功&柳井 修 PIANO DUO

日時：2006年5月27日（土）18:30～

場所：岡山テルサ

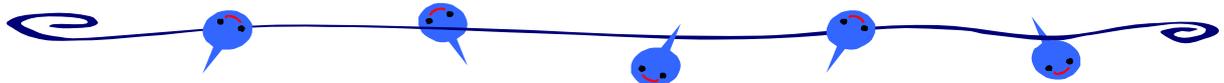
曲目：ラフマニノフ 交響的舞曲 Op.45

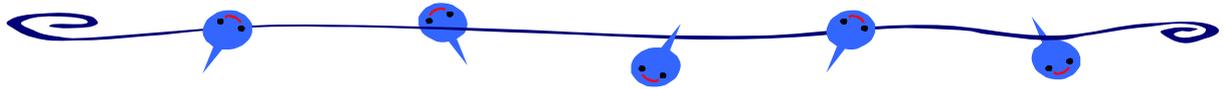
ガーシュウイン 「アイ・ガット・リズム」変奏曲

バーンスタイン シンフォニック・ダンス ウエスト・サイド・ストーリー 他

後援：山陽新聞社、山陽放送、日本音楽表現学会

問い合わせ：岡山大学教育学部 長岡研究室 086-251-7650





ユルンヤコブ・ティム, 木下千代 デュオの夕べ

日 時：2006年7月18日（火） 19:00～

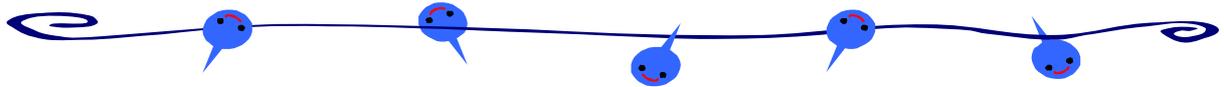
会 場：大阪倶楽部4Fホール（大阪市中央区今橋）

曲 目：バッハ：無伴奏チェロ組曲 第4番

ベートーヴェン：チェロソナタ第3番

ブラームス：チェロソナタ第1番, 他

趣 旨：ライブチッヒ・ゲバントハウス首席チェリスト, ティム氏によるドイツ音楽の夕べ。



室内楽の夕べ ”三人のB”

日 時：2006年7月22日（土） 6時半 開演

会 場：大垣市スイトピアセンター 音楽堂

主 催：かすみの会

曲 目：バッハ：無伴奏チェロ組曲 第4番

ベートーヴェン：モーツァルトの「魔笛」の主題による12の変奏曲 OP.66

ブラームス：クラリネット三重奏曲 Op.114

□ 曲目は変更になる場合もあります

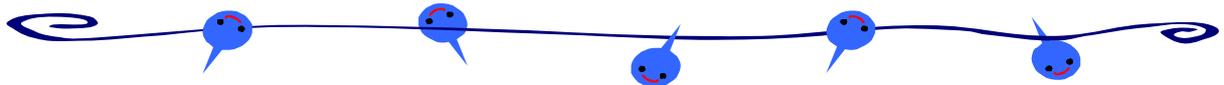
出 演：ユルンヤコブ・ティム（チェロ），河村義子（ピアノ），松岡和美（クラリネット）

趣 旨：世界的に著名なチェロ奏者ユルンヤコブ・ティム氏を招き，地元の演奏家との共演する。

□ 今回は偉大な作曲家3大B□ の作品を集めたコンサート。

入場料：¥2500

問い合わせ先：Mail□ yokko@cse.ne.jp, URL□ <http://www.cse.ne.jp/kasumi/>



寄贈図書

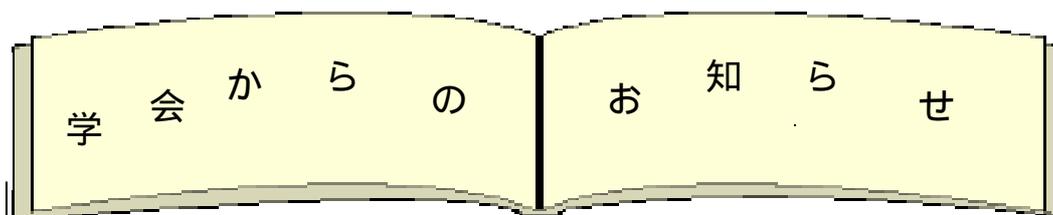
エリザベト音楽大学：『研究紀要XXVI』2006

ローレンス・M. マクガレル（訳）R. マリー・シェーファー「スレノディ平和教育プロジェクト：マリー・シェーファーによる記念講演」

権藤敦子「スレノディ平和教育プロジェクト」と教育から見たマリー・シェーファーの作品

伴谷晃二「エルミタージュの回想，独奏尺八のために(2003)」他，所収





『音楽表現学』 Vol.4
原稿募集!!!

Vol.4の原稿応募締め切りは2006年6月30日です。

『音楽表現学』Vol.3, いかがでしたでしょうか？

ご意見・ご感想等を事務局宛お送りください。

また, vol.4に論文・研究報告・寄書・展望・解説等の原稿をお寄せください。

「投稿規定」は『音楽表現学』の巻末と下記のウェブページに掲載されています。

<http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~eeakita/kitayama/toukoukitei.htm>

みなさまのご投稿をお待ちしています。

学会は会員の音楽活動・研究活動をサポートします。

研究発表の場の一つが機関誌『音楽表現学』です。

学会が「日本学術団体」の広報協力団体に登録されたことによって、『音楽表現学』に論文が掲載されると、大学などでは「査読付論文」としての評価を受けます。年度末などに業績の報告をされる際には、その旨をお記し下さい。

大会の口頭発表は、日本音楽表現学会ならではの表現力を駆使して、文字だけでは伝えられない音声を用い、これまでの研究を発信できる場、それを参加者一同が共有できる場です。

グリーン・アベニュー大会でも、口頭発表のこのような長所を生かす工夫をしています。例えば他の学会と比べて発表時間を若干長くしていますが、それは、発表の中で実演などが含まれることを想定しているからです。会員自身の音楽表現の創意や工夫、実践を披露し、その適用性を問うワークショップや研究発表が本学会の伝統になってきた観があります。日本音楽表現学会ならではの発表の機会をどうぞご遠慮なくご利用下さい。

ニュースレター「会員の声」は、会員の日頃の想い、印象の交流の場です。

どの号でも、専門分野の異なる様々な立場の会員に原稿執筆をお願いしています。今回は選挙と大会案内の特集になっていますが、次号ではまた、様々な記事を掲載したいと考えています。音楽表現に関するご意見や、掲載記事に関するご意見・反論などもお待ちしております。

ニュースレター「会員によるコンサートのご案内」では、各種の演奏、ワークショップ、イベントなどの活動紹介を行います。

これらの活動を学会は「後援」します。みなさまの活動を、ニュースレター最終頁の「後援願」の様式で、どしどしお寄せ下さい。

「会員のアウトプット」では、刊行物の紹介を行います。上梓されたらお知らせください。

その他、所属されている他学会の情報などもお寄せ下さい。

学 会 か ら の お ね が い

学会費納入に関する切実なお願い

学会は会員の学会費によって運営されています。
会計年度は毎年4月に始まって、翌年3月に終わります。
発足後間もないこの学会で会費納入が滞ると活動に大きく響きます。
2004年度、2005年度会費未納の方がいらっしゃいます。4月は新年度の会費納入の時期です。今回は、未納分のある方にはその旨を記した振替用紙を同封しています。ご確認ください。また、既に納入されている場合には、お手数ですが事務局までお知らせください。送金は、ニューズレター最終ページに記載された口座へお願いいたします。なお、年会費を毎年送金する時間のゆとりのない方は、複数年度分を一度にお納めいただくのも一つの方法かと思えます。よろしくお願いいたします。

2006年度会員名簿の原稿をお願いします

会員名簿の記載内容について、自己紹介方式にすることを提案し、原稿をお願いしましたが、集まりが芳しくありません。2005年度の名簿の発行はできませんでした。事務局では2006年度に向けて、できればグリーン・アベニュー大会時に発行したいと考えています。ご協力をよろしくお願いいたします。

1) 自己紹介の内容：以下の項目の中から適宜選択して、文章にしてください。

なお、「よろしく申し上げます」などのご挨拶用言は省きますので、あしからずご了承下さい。

- ・所属 ・専門 ・音楽表現について思うこと ・この頃思うこと
- ・モットー ・夢 ・ホームページアドレス、等々

2) 字数：22字×7行

3) 〆切：2005年12月28日（水）

4) 送付方法：メールでお送りください。ただし、添付書類ではなく、本文に貼付けてください。メールをお使いにならない方は郵送でお願いします。

5) 宛先：s-oku@cc.okayama-u.ac.jp

〒700-8530 岡山市津島中3-1-1 岡山大学教育学部奥研究室気付 日本音楽表現学会

